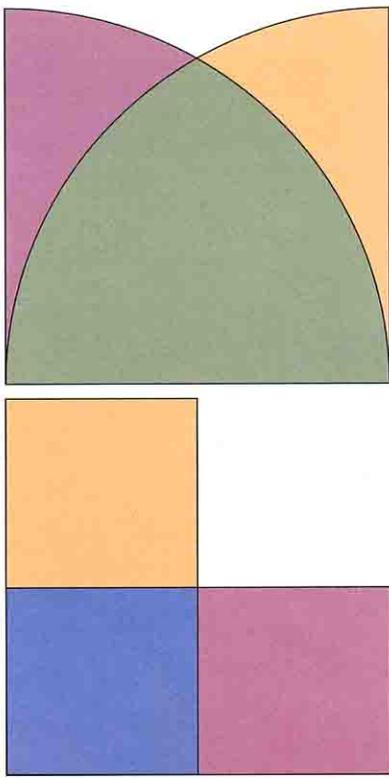


ミュージアム・レター



Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.2

発行日 ● 平成18年(2006)10月15日

もくじ

はじめに	1
住吉物語屏風	1
洛中洛外図小屏風	2
輦台渡し図	3
お知らせ	4

Highlight —ハイライト

- ◆ 住吉物語屏風
- ◆ 洛中洛外図小屏風
- ◆ 小泉檀山

1. ごあいさつ

学習院大学史料館では、平成18年(2006)10月2日(月)から12月14日(木)まで、常設展覧会「描かれたメッセージ—いにしへの都物語・京の旅—」を開催しております。今夏に開催した特別展覧会では、子どもの遊び道具である“絵すごろく”から世相や子どもの夢を読みときましたが、今回は、趣向をかえて、大型作品である屏風を中心に陳列して、京都の名所・旅への憧れなどを、解き明かす試みしております。

本ミュージアム・レター第2号では、この常設展覧会に出品している作品のなかから、3点をえらび、史料の紹介をすることにいたしました。この機会に、当館収蔵品への理解を深めていただければ、まことに幸いです。

2. 住吉物語屏風(すみよしものがたりびょうぶ)

成立 江戸前期

大きさ たて164.4cm, 横306cm



『住吉物語』は継子物語である。中納言家の宮腹の姫君が継母から何度も結婚を妨害されるが、最後には「住吉」に隠れ潜んでいるところを男主人公に発見されて、めでたく結ばれるという筋書の物語。今回、学習院大学史料館で購入した「住吉物語屏風」は、元来草子であったものを、絵だけを屏風に貼りつけたもので、文詞の方はない。その貼り方にも若干の錯簡がある。江戸時代前期の成立であろうか。

原作『住吉ものがたり』(散逸)の成立は『源氏物語』以前に遡るが、既に鎌倉時代にはその「改作本」や絵巻が登場し、さらに室町時代には絵入りの物語草子(奈良絵本)が数多く生みだされ、かくして夥しいばかりの写本が現存する。江戸時代の絵入り整版本もある。もちろん、同じ本はないし、どの本が古態を残しているかも簡単には論じ得ない。諸本の系統分類もいまだである。が、この物語の特性はまさにここにある。時代の好尚に合わせながら変容し続ける流動的本文、しかもそれでいながら継子物語としての骨格は崩されていない。ある意味で本文の固定化を求められた聖典『源氏物語』以上に、物語らしさを生きたともいえる。この持続する生命力の秘密は何か。また本文と不即不離の関係で生成された絵の問題も重要である。史料館蔵「住吉物語屏風」の位置づけがまたれる。

(当館館長 神田龍身)



(左隻)

【洛中洛外図小屏風(らくちゅうらくがいずこびょうぶ)】

成立 江戸前期

大きさ たて106cm, 横281cm

3. 洛中洛外図小屏風

本図は、右隻に三十三間堂から知恩院に至る東山一帯を、左隻に金閣寺から松尾大社に至る北山・西山を配し、名立たる諸処とそこに集う人々の風俗を描き出す六曲一双の小屏風である。

紙本着色の地には切箔が蒔かれ、長くうねりながら棚引く金雲が画面の装飾化と空間の分割統合を担う。右隻の底部には鴨川が流れ、五条大橋を渡ると方広寺大仏殿がみえる。金雲を隔てたその先には、桜の咲誇る豊国廟と清水寺が並び、八坂の塔・松原を経て祇園社、そして歌舞伎小屋が立ち並ぶ四条河原に至る。左隻では、秋景の天龍寺・釈迦堂といった嵯峨・嵐山の寺院を点景に、六扇に渡って北野社が大きく展開する。

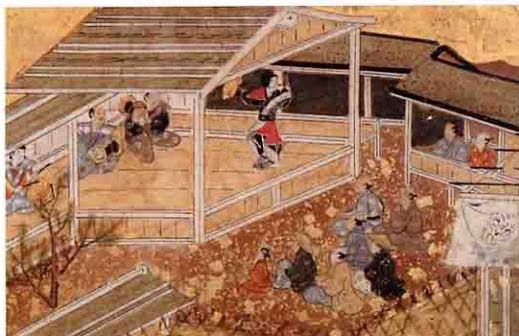
京の名所と風俗を描く屏風絵としては、「洛中洛外図」をはじめ、地域や描写主題を限定した「京名所図」があげられる。本図の場合、左隻では北野社が、一方右隻では祇園社と四条河原が大きく扱われることから、北野と祇園を対にした「京名所図」の流れをくむものとも解し得る。しかし、各隻の描かれた景観の広がり、北野・祇園の遊樂の様子に華やかさを欠くことを鑑みれば、本図はむしろ、「洛中洛外図」のパリエーションの一つであると考えられよう。

本図の小屏風という作品形態や切箔が蒔かれた地の処理、形式化した町屋表現など、作品の成立契機を考える上で、本図が元来仕込絵であった可能性は否定できないが、興味深い図様もいくつか見られる。まず、北野社の回廊に囲まれた社殿前では湯立神楽が行われている(挿図1)。北野社と湯立神楽というモチーフの組み合わせは、他の洛中洛外図では類を見ず、注目すべき図様といえる。また北野社頭に歌舞伎小屋が描かれず、右近馬場での競馬が大きく扱われていることも特徴だろう。さらに、大堰川に渡月橋ではなく渡し舟が描かれている点や歌舞伎小屋での演者の姿態が「寛文美人図」に通ずる点も興味深い(挿図2)。制作年代や粉本の問題に関わる論点となろう。

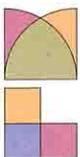
(本学院生 上野友愛)



(挿図1)



(挿図2)





(右隻)

4. 小泉檀山筆 輦台渡し図

「霖雨連々として渡津を絶つ 川波田々として流れ隔つこと
 新なり 水神我を憐れんで輦に乗るを許す 暫時貴人と成るを得たるに似る」。長雨で水かさが増したのでこれ幸いと輦台に乗った、今日はちょっとセレブな気分。といったところか。落款に“道中作”とあるが、なるほど白扇に軽妙な筆遣いで、色はポイントに差すのみ。ライブ感がいい。いかにもうれしそうに輦台に乗るのがこの絵の画者、小泉檀山である。

小泉檀山(斐・1770~1854)は下野国(現、栃木県)益子の神職の家に生まれたが、生来絵が好きで島崎雲圃の弟子となり本格的に絵を描くようになる。一方、神官として50歳の時、黒羽藩主大関氏に抱えられるが、その後も作画活動を続けた絵師である。

署名に添えられた語から、この絵は孫の“由”に与えられたことが知られる。「檀山翁墓碑銘」などによると檀山には子がなく、養子をとって、国子という孫娘がいたことがわかっている。この人物との関係はわからないが、親密な繋がりの中で生まれた肩肘張らない佳品といえる。(当館客員研究員 加藤陽介)

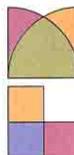
【小泉檀山筆 輦台渡し図

(こいずみだんざんひつ れんだいわたしず)

成立 江戸後期

伝来 松室重剛関係史料(当館保管,史料番号120)

大きさ たて23.8cm, 横50.2cm



5.刊行物と催し物のお知らせ

学習院大学史料館編『写真集 明治の記憶』

(吉川弘文館,2006年6月刊行)

学習院大学図書館・史料館が収蔵する明治期の写真437点を収録。価格9,450円。明治天皇の巡幸に従って撮影された日本各地の風景写真、建築写真を中心に時代順に紹介。また千島列島の開拓、八甲田山での雪中行軍を伝える写真もある。

ミュージアム・レター第2号

2006年10月15日発行

〒171-8588

東京都豊島区目白1-5-1

電話 03 (3986) 0221

内線 6569

FAX 03 (5992) 9219

2006年度 常設展覧会

「描かれたメッセージ—いにしへの都物語・京の旅—」展

会 期：10月2日(月)～12月14日(木)

開室時間：12:00～17:00(平日) 10:00～12:00(土曜日)

場 所：北2号館1階 史料館展示室

※閉室日は祝・休日および10月17日。詳しくは当館ホームページでご確認下さい

※入場無料です

Gakushuin University Museum of History

学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

第51回 史料館講座

講 師：古楽器演奏家 宮田 まゆみ氏

日 時：12月5日(火) 18:30～20:00

場 所：学習院創立百周年記念会館1階正堂

古楽器演奏と講演の二部構成の予定です

※入場無料・事前申し込み不要です

当館収蔵品が出品されています

大阪府立近^{ちか}つ飛^{あすか}鳥博物館

平成18年度秋季特別展「応神大王の時代—河内政権の幕開け—」

会 期：9月30日(土)～11月26日(日)

場 所：〒585-0001 大阪府南河内郡河南町大字東山299番地

当館からの出品 伝応神陵古墳出土 水鳥形埴輪



九州国立博物館

開館一周年記念特別展

『海の神々—捧げられた宝物—』

会 期：10月8日(日)～11月26日(日)

場 所：〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2

当館からの出品 アバイ(ミクロネシア諸島の男子集会所) 模型
ほか

